

令和5年度第1回吾妻地域保健医療対策協議会
及び第1回同協議会地域医療構想部会 議事概要

- 日 時：令和5年8月9日（水）17：30～19：45
- 場 所：吾妻保健福祉事務所 大会議室
- 出席者：吾妻地域保健医療対策協議会・部会委員31名中29名出席
地域医療構想アドバイザー2名、事務局10名、傍聴者1名

1 開 会

2 あいさつ

議題（1）第9次群馬県保健医療計画について

- 資料1-1～資料1-2に基づき事務局（吾妻保健福祉事務所）から説明

議題（2）第8次群馬県保健医療計画の進捗状況について

- 資料2に基づき事務局（吾妻保健福祉事務所）から説明
- 質疑・意見等の概要は、次のとおり。

委員

- ・救急医療については、医療現場の負担を軽減するために、適正な救急車の利用や救急外来の受診が大事だと思うが、適正な利用や受診が確認できる指標はないのか。

事務局（吾妻保健福祉事務所）

- ・手元にないため、データや資料等の存否を確認した上で、改めて回答したい。

委員

- ・新型コロナウイルス感染症の救急搬送については、5類への移行に伴い、要請があれば一般の搬送と同様に搬送している。5類移行後に陽性の疑いで救急搬送された件数は、毎月10件程度である。

議題（3）群馬県の新型コロナウイルス感染症対応への振り返り及び課題と評価

- 資料3-1～資料3-3に基づき事務局（感染症・がん疾病対策課）から説明
- 資料3-2 新型コロナウイルス感染症対応に係る課題と評価の提出を各町村、医療機関及び消防等に依頼

議題（4）地域医療構想について

- 資料4-1～資料4-3に基づき事務局（吾妻保健福祉事務所）から説明

具体的対応方針等について

○資料4-4に基づき原町赤十字病院から説明

委員

- ・原町日赤は急性期、回復期、慢性期の3つの機能を備えるとともに、標榜科目数21を有する吾妻地域の中核病院であるため、吾妻医療圏において、様々な役割を果たす必要がある。その中でも5つの分野が重要と捉え、公的医療機関等2025プランを策定した。
- ・まず、第1は救急医療である。当院は救急告示病院であり、2020年4月から前橋赤十字病院からの派遣により、救急科の医師が常勤で勤務している。
- ・また、吾妻広域消防本部との連携を強化し、当院の救急医療体制の充実を図った。その結果、救急搬送件数は増加し、2021年に初めて1,000件を超え、現在では吾妻医療圏の救急搬送患者の3分の1以上を占めている。
- ・しかしながら、当院は循環器科内科医及び脳神経外科医が非常勤のため、心血管疾患や脳血管疾患は、渋川地域や沼田地域との連携強化が必要となっている。この2つの分野に関しては、今後、常勤医の設置を計画したいと考えている。
- ・2番目は感染症治療である。当院は第二種感染症指定医療機関である。感染症対応について、検査体制の確立、マニュアルの作成、ワクチン接種など、住民の生活を守るために、日頃から院内の感染対策を徹底していく所存である。
- ・3番目はがん治療である。群馬県がん診療連携推進病院となっており、群馬大学附属病院、前橋赤十字病院、渋川医療センター等と連携し、標準的ながん治療を受けることができる体制のほか、抗がん剤治療や免疫治療など、薬物治療についての最新の治験を踏まえた医療を提供できる体制を整備していきたいと考えている。
- ・4番目は災害医療である。災害拠点病院として、これまで日航機墜落事故、阪神淡路大震災、東日本大震災、草津白根山噴火等、様々な災害時にDMAT（災害派遣医療チーム）を派遣してきた。今後も災害医療に関する定期的な勉強会や講習会のほか、災害訓練などを継続することにより、災害発生時に迅速に対応できるチームを養成したいと考えている。
- ・5番目は在宅診療である。当院は、在宅療養支援病院であり、住み慣れた地域で安心して介護を受けられる在宅診療や訪問看護に、これまで以上に注力したいと考えている。今後は、「訪問看護ステーション」を「在宅診療センター」へと名称変更し、幅広く対応したいと考えているので、御理解と御協力をお願いしたい。
- ・最後に、吾妻地域では医師不足が深刻であるが、当院も約200床の病床に対し、常勤の医師は15名で、非常勤の医師が70名近くという状況である。医師不足や看護師不足にも対応したいと考えている。

2025年への対応方針について

○資料4-5に基づき田島病院から説明

委員

- ・これまで、近年の経営状況を見つつ、70床の病床の維持を検討してきた。回復期（一

般病床)、慢性期(療養病床)の2つの病床を維持し、患者にとって最後の砦という思いで続けてきたが、外来患者数が年々減少し、経営は先行き不透明な状態である。

- ・看護師不足やその他の職種不足の問題もあり、吾妻地域全体の人口減少問題等を踏まえ、経営環境を改善するにはどうしたらよいかという観点で検討した結果、職員給与や病院の維持を考え、病床数の削減という結論に至った。70床(回復期24床・慢性期46床)ある病床を60床(回復期24床・慢性期36床)にしたいと考えている。一度減らせば戻すことはできないので覚悟しているが、経営上の課題等を踏まえて再計画した。
- ・今後は、原町赤十字病院をはじめ、他の病院と連携し、吾妻地域の医療を継続していきたいと考えている。

地域医療構想に関する留意事項について

○資料4-6に基づき事務局(吾妻保健福祉事務所)から説明

令和4年度病床機能報告の結果について

○資料4-7に基づき事務局(吾妻保健福祉事務所)から説明

地域医療構想アドバイザー

- ・資料を拝見した率直な感想として、人口が少ない中であって、病床数が多いように思う。資料4-7の病床稼働率が60~70%台、一般的な病院経営として病床利用率70%を下回ると危険な状況である。病院を経営する環境として、非常に難しいということである。
- ・原町赤十字病院への救急搬送件数が1,000件を超えたということは、ニーズがあるということで、それにはいろいろと努力した結果だとは思いますが、急性期病床が130床で年間1,000件は少ない。このような状況の中で、心筋梗塞や脳卒中に関する専門医を配置したいという思いは十分理解できるが非常に厳しいと思う。
- ・脳卒中に関しては、血管内治療などが求められ、日本脳卒中協会では、医師3名、24時間365日体制で患者を受け入れるという体制を示している。専門医3名を揃えるというのは私の病院(美原記念病院)でも非常に厳しい。吾妻地域で血管内治療ができないから専門医を配置したいという思いは十分に理解できるがなかなか難しい。一定の患者数を確保できなければ若い医師は来ない。
- ・では、血管内治療が必要な時に、吾妻地域でどのような対応が可能であるかを考えると、tPA(血栓溶解療法)はその場でできる治療法であるため、点滴をしながら血管内治療ができる病院に搬送するといった連携の強化が求められると思う。
- ・資料4-6の10ページ、吾妻保健医療圏の概況を見ると、がんの自足率は37%であるが、がんは時間が持てる病気であり、渋川や前橋に流出というのは普通の流れだと思う。肺炎や骨折の自足率が高いというのは、まさに地域に密着した病院の在り方なのだろう。
- ・居宅生活の高齢者で障害を持たれた方が急性期として病院に搬送される際に一番多い病名が肺炎である。これに対してしっかりケアをすることが、まさに地域に求められる急性期や救急医療ではないかと思う。現在、心疾患で一番求められているのは慢性心不全であり、地域において、どのように慢性心不全の患者を診ていくのかということが、大きな課題である。

- ・そういう意味で、吾妻地域の数字の上だけで申し上げれば、全体的に病床数が多いのではないかと思う。
- ・また、急性期医療ということに関しては、吾妻地域内で急性期医療、tP A、血管内治療、あるいはがんの治療を吾妻地域内だけで対応することは非常に厳しいと思われる。他の地域との連携を考えていくことが必要なのではないかと思う。

委員

- ・吾妻地域の常勤医として24年目になるので、この地域の医療については、ある程度理解している。20年前の脳外科医が常勤医だった時代を知っているので、夢を語りたという思いはどうしてもある。現実を見れば、地域医療構想アドバイザーの言うとおりでと思うが、我々の使命として住民に夢をあたえるということも大事かと思う。数値だけで無理だとか、住民に我慢しろとは言えないし、努力はしたい。結果として無理かもしれないが、夢を語りながら他の地域との連携も強化してまいりたいと考えている。

地域医療構想アドバイザー

- ・御苦労は理解しているし大変だと思う。

委員

- ・草津こまくさ病院では、看護師不足もあり、114床ある病床のうち、最大稼働数は80件に届くか届かないという程度である。この数値で計算すると、まだやれるかなと思う。

地域医療構想アドバイザー

- ・群馬大学附属病院でも、各診療科のヒアリングをしてみると、全ての診療科で同じようにというのは難しい。特に、脳血管内治療を2次医療圏だけで全て対応するのは難しいので、脳外科に関しては、どうしても2.5次医療圏でという対応になってくる。努力はしていくが、現状、そうしていかざるを得ない。
- ・原町赤十字病院の救急医療体制が充実してきて対応いただいているが、脳血管疾患は、なかなか対応が困難である。しかしながら、虚血性心疾患への対応は、どうしても救急医療の中での対応が必要だと思うので、循環器内科医との協力が必要と考えている。これには対応できているということによいか。

委員

- ・非常勤の医師で対応している。

地域医療構想アドバイザー

- ・できれば常勤の医師でということだと思うが、最近、県内で初期研修医が増えているので、できる限り医療圏の要望に応えられるように対応してまいりたいと考えている。

委員

- ・西吾妻福祉病院は、脳卒中や心疾患等の患者を受け入れているが、常勤医6人で24時間

365日で受け入れている。明らかに脳疾患という救急要請は、直接専門医へ連絡してくださいというケースがある。

- ・また、心筋梗塞の場合は、受け入れ可能な医療機関を探すのに30分～1時間かかってしまうケースもある。転院搬送にかかる時間や人員も非常に大きく、隠れた問題になっている。

委員

- ・これから連携が大事になってくる。様々な問題があるので、現場や地域等の声をいただきながら、よりよい医療提供体制を築いてまいりたい。各委員におかれては、引き続き御協力をお願いしたい。

議題（5）外来機能の明確化・連携について

○資料5-1～資料5-2に基づき事務局（吾妻保健福祉事務所）から説明

その他

○資料6に基づき事務局（医務課）から説明

事務局（医務課）

- ・第9期介護保険事業計画策定スケジュールについて、介護保険事業計画と保健医療計画との整合性を図り、介護施設及び在宅医療等の需要を適切に見込むため、地域保健医療対策協議会において、調整及び協議したいと考えている。
- ・詳細については、介護担当課から、次の地域保健医療対策協議会で説明する予定である。